

運動部活動指導者の現状と問題点

— 小学校バスケットボール部 指導者への調査をもとに —

高山 千代

The Present Conditions and Problems of Sports Club Advisers
— Based on a Survey of Primary School Basketball Club Advisers —

Chiyo Takayama

はじめに

学校教育の中の運動部活動における指導者の現状と問題点について、本学の研究報告第27号で報告したが、今回はその第二報として小学校（ミニバスケットボール）顧問への調査をもとに報告したい。小学校の場合は教科担当性ではないため指導者自身のバスケットボールの経験者は第一報で報告した高等学校の場合より、少数であると予測される。しかしながら新潟県では、ミニバスケットボールの活動は盛んであり、そのチーム数は全国1位であり、平成6年度登録数350チーム、7年度444チーム、8年度480チームとさらに増加の状況にある²⁾。このことに関連して本県におけるバスケットボールの歴史について少し紹介しておきたい。大正初期にF・Hブラウンの来日をきっかけに全国にバスケットボールが普及されていくが、本県では大正10年ごろから中央で指導をうけた多くの学校教育に携わる人たちが各地で指導し普及に及んだ。以後各種の大会で数々の優勝を果たし“バスケット王国”といわれるほど全国的に活躍するチーム、選手を多く輩出している。新潟県バスケットボール協会が設立されてから65年を迎え、全国でも有数のバスケットボールの盛んな県である³⁾。このように、本県のバスケットボール競技は小学校からの多くの指導者によって支えられており、又、栄光の歴史を有するが故になおさら現場の教員にとってその指導はかなりの負担を強いられている状況であるのではないかと思われる。部活動における指導者の現状と問題点を検討することにより、本報告が部活動指導の1資料として役立つことができれば幸いである。

方 法

1. 調査対象および調査時期

1994年11月～1995年1月に調査済みの60のサンプル¹⁾に加え、1997年5月～7月に新たに新潟県内の小学校117校に調査し、59校74人から有効回答が得られた。合計回答率59.7%

新潟青陵女子短期大学研究報告 第28号 (1998)

2. 調査内容

第一報¹⁾と同様の質問紙によるアンケート調査を実施した。尚、第一報では省略したが質問用紙を報告の最後に添付する。

結果および考察

以下1～4の分析方法は第一報¹⁾と同様

1. Q1～Q52の質問項目についての因子分析結果により要因名をまとめた。(表1)

表1 項目群別要因名

項目群	質問項目(Q1～Q52)	要因名
指導の現状	1、2、6	積極性、充実感
	3、5	不適合感
	4、7	負担、困難感
指導の技術	9、10	知識不足
	11、12、13、14、15	研究熱心
指導の環境	16、17	学内の理解
	18、19	家庭の理解
	20、21、22	保護者の理解
部員との関係	23、24、25、27、28	信頼感
	26、29、30、31	民主性
	32、33	配慮性
部員との状況	34、35、40、41、43、44	意欲、まとまり
	36、37、38、39、42	不真面目さ
指導の言葉	46、52	配慮の言葉
	47、48、49、50、51	指導の言葉

2. 指導者自身の運動部の経験年数(中学1年～大学4年まで)と、1で得た各要因間との関係(分散分析の結果の交互作用の図とFisherのPLSDによる有意水準の表は顕著なものについて、掲載する。以下の3、4についても同様とする。)

A バスケットボール部活動歴については、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感は少ない。(図2-1、表2-1)

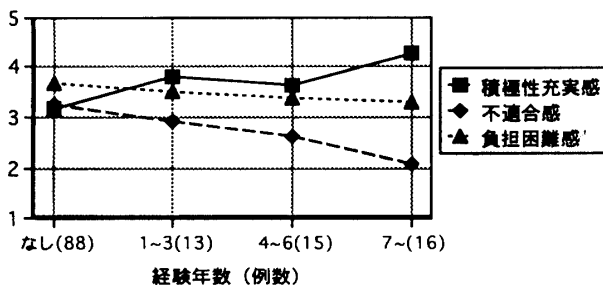


図2-1: バスケット経験と指導の現状

表2-1 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.0472*	.2709	.4785
なし, 4~6	.1109	.0328*	.2089
なし, 7以上	.0002***	<.0001***	.1052*
1~3, 4~6	.6987*	.4701	.7093
1~3, 7以上	.2151	.0308*	.5349
4~6, 7以上	.0909	.1349*	.8011

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心である。(図2-2、表2-2)

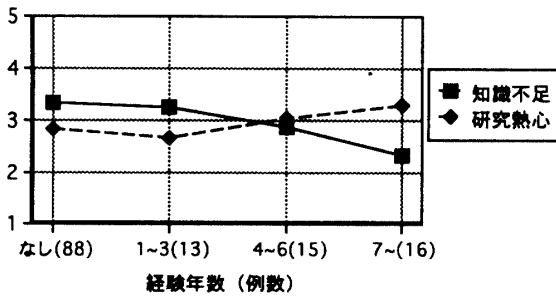


図2-2：バスケット経験と指導の技術

表2-2 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD 有意水準：5%	
	知識不足	研究熱心
なし, 1~3	.8723	.5030
なし, 4~6	.1166	.4548
なし, 7以上	.0006***	.0595
1~3, 4~6	.3011	.2825
1~3, 7以上	.0168*	.0573
4~6, 7以上	.1574	.3942

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、どのグループも高く有意な差は見られない。

4) 部員との関係については、どのグループも高く有意な差は見られず、5段階平均値では信頼感は3.3~3.7、民主性は3.2~3.5、配慮性は4.0~4.2の範囲である。

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりでは経験年数の最も多いグループが他より高い、経験年数のないグループが不真面目だと感じているが1~3年グループが最も真面目だと感じている。(図2-3、表2-3)

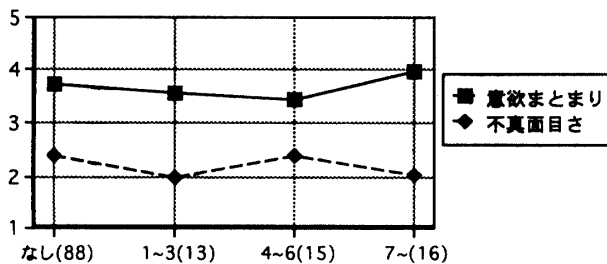


図2-3：バスケット経験と部員の状況

表2-3 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD 有意水準：5%	
	意欲のまとまり	不真面目さ
なし, 1~3	.3604	.3807
なし, 4~6	.0421*	.9898
なし, 7以上	.0829	.0406*
1~3, 4~6	.4102	.1017
1~3, 7以上	.0472*	.8756
4~6, 7以上	.0042**	.1176

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では3.3~3.5、指導の言葉では2.8~3.0の範囲にあり有意な差は見られない。

B 運動部活動歴 (バスケットボールと他の種目の経験年数の和) について、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じている。7年以上のグループに比べ他は不適合感を少し感じる。負担、困難感の差は少ない。(図2-4、表2-4)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心である。

3) 指導の環境については、どのグループも高く有意な差は見られない。

4) 部員との関係については、信頼感は経験年数の多い方が、民主性では経験年数の少ない方がより高く、配慮性はどのグループも高いが有意な差は見られない。

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりで3.6~3.8の範囲、不真面目さは2.2~2.5の範囲にあり有意な差は見られない。

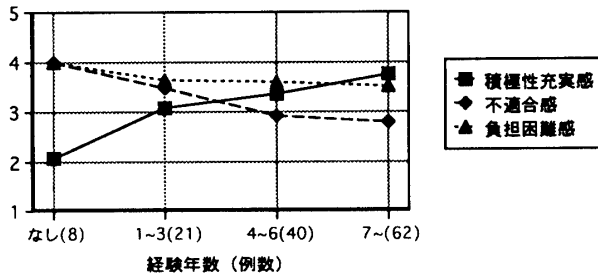


図2-4：運動部経験と指導の現状

6) 指導の言葉については、有意な差は見られないが、指導の言葉では経験年数の多い方がより高くなっている。

このように、指導者自身の部活動の経験は、部活動の指導場面に影響を及ぼしている。経験年数が多い方が、より積極性、充実感を持って指導しており不適合感が少ないことが認められた。運動部の経験のない場合は、積極性、充実感で2.1(5段階平均値)という低さが目立つ。他の要因については顕著な差は認められなかった。又、例数を比較してみるとバスケットボールに関しては経験年数で、なし(88)、1~3年(13)、4~6年(15)、7年以上(16)である。他の種目も含めた運動部の経験年数では、なし(8)、1~3年(21)、4~6年(40)、7年以上(62)という結果である。小学校の顧問ではバスケットボールの経験者は32.8%であるが、運動部の経験者93.9%と非常に多いことが解る。さらに、7年以上つまり中学、高校、大学とどの段階でも運動部に所属していた者が47.3%である。

3. 運動部顧問としての指導経験年数と、1で得た各要因間との関係を調べた。

A バスケットボール部指導歴について、次のような傾向が認められた。尚、20年以上の指導者はいなかったので3つのグループ間で比較した。

1) 指導の現状については、指導年数の多い方が積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感は少ない。(図3-1、表3-1)

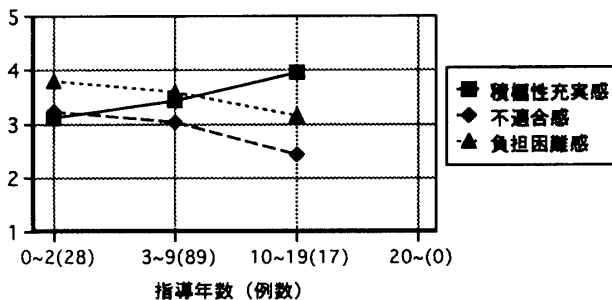


図3-1：バスケット指導歴と指導の現状

2) 指導の技術については、指導年数の少ない方が知識不足を感じている。又、指導年数の多い方が研究熱心である。(図3-2、表3-2)

3) 指導の環境については、有意な差は見られない。

4) 部員との関係については指導年数の多い方が信頼感が高く、指導年数の少ない方が、民主性が高く、配慮性はどのグループも4.0~4.1の範囲と高く、差は認められない。

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりで指導年数10年~19年のグループが高

表2-4 部活動経験年数間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.0177*	.2455	.3856
なし, 4~6	.0013**	.0114*	.2635
なし, 7以上	<.0001***	.0035**	.1768
1~3, 4~6	.2894	.0606	.7766
1~3, 7以上	.0057**	.0132*	.5446
4~6, 7以上	.0425*	.5399	.7112

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表3-1 バスケット指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
0~2, 3~9	.1543	.3808	.0689
0~2, 10~19	.0095**	.0184*	.0076**
3~9, 10~19	.0615	.0423*	.0201*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

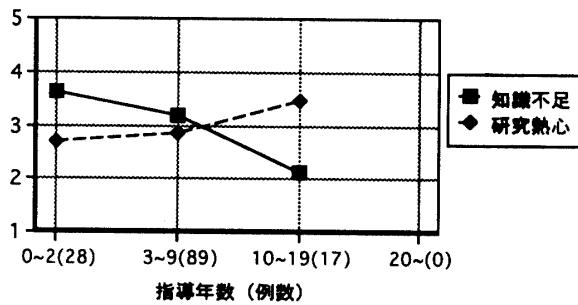


図3-2：バスケット指導歴と指導の技術

い。不真面目さは2.3~2.4の範囲で差は見られない。

6) 指導の言葉については、有意な差は見られない。

B 運動部指導歴（バスケットボールと他の種目の指導年数の和）について、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、10~19年のグループが積極性、充実感では高く、不適合感および負担、困難感は少ない。

2) 指導の技術については、10~19年のグループの他は知識不足を感じている。指導年数の多い方が研究熱心である。（図3-3、表3-3）

表3-2 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%
	知識不足	研究熱心
0~2, 3~9	.0526	.3711
0~2, 10~19	<.0001***	.0059**
3~9, 10~19	.0001***	.0130*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

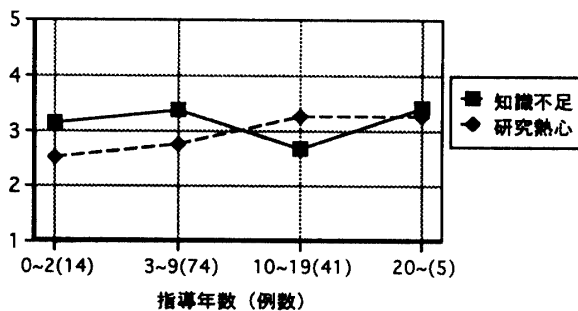


図3-3：運動部指導歴と指導の技術

表3-3 運動部指導歴間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%
	知識不足	研究熱心
0~2, 3~9	.4180	.3448
0~2, 10~19	.1488	.0104*
0~2, 20~	.6303	.1269
3~9, 10~19	.0006***	.0076**
3~9, 20~	.9750	.2589
10~19, 20~	.1414	.9928

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、家庭、保護者の理解で3年未満のグループが高く、他には顕著な差は見られない。

4) 部員との関係については10~19年のグループが信頼感が高い。

5) 部員の状況については、有意な差は見られない。

6) 指導の言葉については、有意な差は見られない。

C 他の種目の指導歴についてはグループ間に有意な差は認められなかった。

例数については、若い指導者（回答者134人の年齢平均値、33.5歳）が多いことから、バスケットボール部指導歴では20年以上のグループは0で全指導歴でも5例となっている。このグループについては例数が少ないので単純には比較はできないが、10~19年のグループは、意欲的な取り組み（積極性・充実感、研究熱心さ）がみられ、子供たちも意欲的に取り組んでいる（信頼感、不真面目）。この傾向はバスケットボールの指導歴について、より顕著であった。

4. 指導の技術的な部分についての指導者のタイプと、1で得た各要因間との関係を調べた。

1) 指導の現状については、「解る—研究熱心」タイプは特に積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感他のタイプよりも少ない。「解る—研究不熱心」タイプと、

「解らない－研究熱心」タイプの間には、差はない。「解らない－研究不熱心」は、積極性、充実感が少し低く、不適合感および負担、困難感を感じている。(図4-1、表4-1)

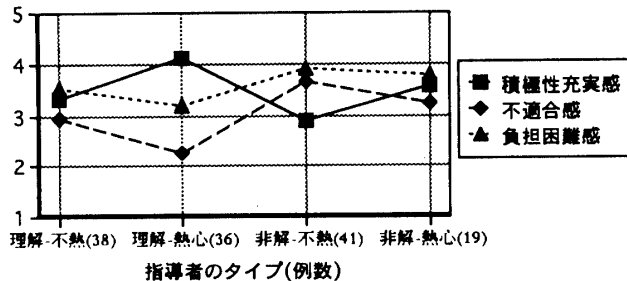


図4-1：指導者のタイプと指導の現状

表4-1 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD 有意水準：5%

	積極性充実感	不適合感	負担困難感
理解-不熱,理解-熱心	.0003***	.0038**	.1048
理解-不熱,非解-不熱	.0564	.0027**	.0887
理解-不熱,非解-熱心	.3046	.3494	.3291
理解-熱心,非解-不熱	<.0001***	<.0001***	.0010**
理解-熱心,非解-熱心	.0472*	.0011**	.0224*
非解-不熱,非解-熱心	.0102*	.1268	.6900

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

- 3) 指導の環境については、「解らない－研究熱心」タイプは、学内、保護者からの理解応援があると感じている。「解らない－研究不熱心」タイプは、いずれも低い。
- 4) 部員との関係については、「解らない－研究不熱心」タイプは他のどのタイプより信頼感が低い。「解る－研究不熱心」タイプと、「解らない－研究熱心」タイプでは、差はほとんど認められない。民主性、配慮性では、タイプ間に有意な差は見られない。(図4-2、表4-2)

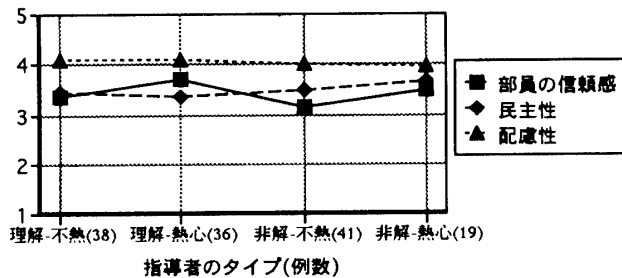


図4-2：指導者のタイプと部員との関係

表4-2 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD 有意水準：5%

	信頼性	民主性	配慮性
理解-不熱,理解-熱心	.0062**	.6098	.9804
理解-不熱,非解-不熱	.0426*	.8646	.7522
理解-不熱,非解-熱心	.4377	.2864	.6255
理解-熱心,非解-不熱	<.0001***	.4918	.7366
理解-熱心,非解-熱心	.1335	.1412	.6144
非解-不熱,非解-熱心	.0156*	.3463	.8118

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

- 5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりでは、「解る－研究熱心」タイプが「不熱心」な2タイプより高い。又「熱心」な2タイプは不真面目さはより低い。(図4-3、表4-3)

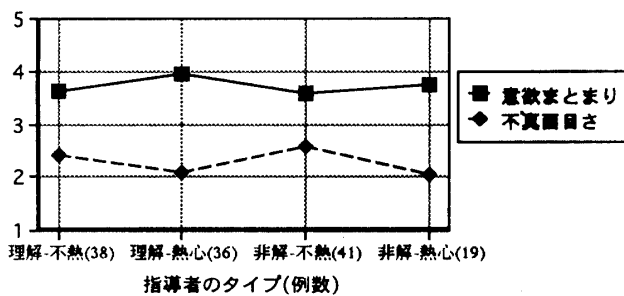


図4-3：指導者のタイプと部員の状況

表4-3 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD 有意水準：5%

	意欲まとまり	不真面目さ
理解-不熱,理解-熱心	.0044*	.0339*
理解-不熱,非解-不熱	.8159	.2456
理解-不熱,非解-熱心	.2747	.0348*
理解-熱心,非解-不熱	.0020**	.0012**
理解-熱心,非解-熱心	.1960	.7227
非解-不熱,非解-熱心	.1973	.0024**

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では、タイプ間に有意な差は見られない。指導の言葉は、「解る—研究熱心」タイプが他より高い。(図4-4、表4-4)

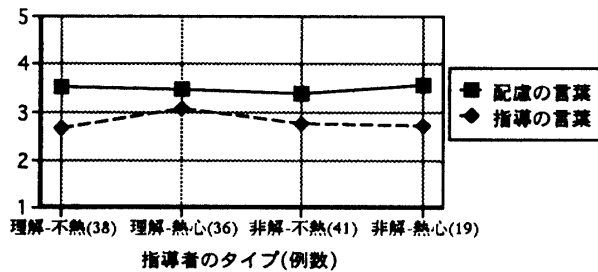


図4-4：指導者のタイプと指導の言葉

表4-4 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD	
	配慮の言葉	指導の言葉
理解-不熱, 理解-熱心	.6469	.0030**
理解-不熱, 非解-不熱	.2581	.4080
理解-不熱, 非解-熱心	.7691	.7778
理解-熱心, 非解-不熱	.5135	.0263*
理解-熱心, 非解-熱心	.5053	.0293*
非解-不熱, 非解-熱心	.2246	.6974

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

タイプ別の指導者においては、「解る—研究熱心」タイプが、他のタイプより、意欲的に取り組み、子供たちも意欲的に真面目に取り組み、周りからの理解を得ている。「解る」の中にバスケットボール部の経験および指導歴の長い者が含まれていると考えられるが、「解らない」つまり、バスケットボール部の経験および指導歴が少ない場合でも「研究熱心」であれば、「解る—研究不熱心」タイプよりも充実感を感じ子供たちの信頼感、周りからの理解を得ているといえる。

ま と め

第一報の高校バスケットボール部の報告結果と同様に、今回の小学校ミニバスケットボール部の調査においても、指導者自身の運動部の経験が、部活動指導に対する意欲的な取り組み方に影響することが認められた。又、4つのタイプ別指導者についての結果からは、専門的な技術・知識があり研究熱心な場合は、指導者としての資質が最も高いといえるが、専門的な技術・知識がなくても研究熱心な場合は、専門的な技術・知識があるが研究不熱心な指導者に劣らないばかりか、より充実した指導状況にあるということがいえる。つまり、指導者の取り組む姿勢によって、子供たちとの信頼関係が成立し、子供たちの意欲的な活動を引き出し、指導者自信の充実感を産み出しているといえる。小学校の顧問については、2の指導者自身の運動部の経験年数のところで示したように、顧問スポーツ(バスケットボール)の経験がない場合が66.7%であるが、他の種目を含めた運動部の経験がない場合は、わずかに6.1%であり小学校のバスケットボール部顧問のほとんどが学校時代に運動部を経験している。又、中学～大学を通しての経験者(経験年数7年以上)が、47.0%であることから、第一報における高等学校のバスケットボール部顧問に比べ、専門性は必ずしも高くはないが、顧問の多くが運動部を理解し積極的に取り組んでいると考えられる。

次回は、中学校の顧問の状況についてまとめ報告したい。

(資料1)

ミニ・バスケットボール部顧問の先生・コーチへ〈質問用紙〉

新潟青陵女子短期大学 講師 高山千代

A 下の1~9について、お答え下さい。

1. 性別 (男・女) 2. 年齢 (才) 3. 未婚・既婚
4. 所属学年 (年・外部のコーチ) 5. 担任 (無・有)
6. 部の性別 (男子部・女子部)
7. 現在の部員数 (男子 4年生 人、5年生 人、6年生 人)
 (女子 4年生 人、5年生 人、6年生 人)
8. 今までに指導された種目と期間 (今年も1年として)
 種目 ミニバスケットボール (年)
 その他の種目
 • (年) • (年)
 • (年) • (年)
9. ご自身の中学・高校・大学時の部活動の経験
 中学校 種目 • 年間
 高等学校 種目 • 年間
 大 学 種目 • 年間
10. 一週間にどれ位、部活動の指導をしますか (時間/日・ 回/7日)
 一週間にどれ位、練習をしますか (時間/日・ 回/7日)
 日曜日は月に何回位、練習をしますか (回/月)
 年に何回位、練習試合をしますか (回/年)

B 練習内容について、答えて下さい。

1. 普段よく実施している内容をあげてください。
 (例 フットワーク・ドリブルシュート・三角パス・2:1速攻・5:5ゲーム等)
2. 特に大切に指導していることがありますか、あればあげてください。
3. 指導にでられない時、どのように対処していますか。
4. 試合前に特別実施することがありますか、あればあげてください。
5. レギュラー、非レギュラーの扱いの違いがあればあげてください。

C 部活動の目標について、下記の項目の中で重視しているものを3つ選び、重視している順に1~3の番号をいれて下さい。

- 試合での勝利 () • バスケットの楽しさの経験 () • 仲間づくり ()
- 精神力を養う () • チーム内の役割分担や協力 () • 体力の向上 ()
- 社会性を養う () • 個々の技能の向上 ()

下記の質問について、あなたが部活動の指導に携わっている上で、日頃感じていることをお答え下さい。答え方は5～1の程度（5…あてはまる、4…ややあてはまる、3…どちらともいえない、2…あまりあてはまらない、1…あてはまらない）の中で、適当な数字1つの○をつけて下さい。

部活動指導の現状について

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 部活動の指導は楽しい | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 2. 希望して顧問になった | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 3. 顧問を辞めたいと思うことがある | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 4. 時間的に負担である | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 5. 部の指導に向いていないと思う | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 6. 指導する事に充実感を持っている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 7. 部活動の指導に困難さを感じる | |

指導の技術的な部分について

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 8. 指導方法をもっと知りたい | |
| 9. どんな練習をすればよいか解らない | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 10. 審判方法がよく解らない | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 11. バスケットボールの本などをよく読む | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 12. 指導者講習会によく参加する | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 13. 他の学校の顧問とよく話をする | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 14. 常に練習内容に工夫している | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 15. 試合のビデオを撮影し指導に利用する | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

指導の環境について

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 16. 他の先生方は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 17. 校長・教頭は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 18. 家庭の理解がある（ご自身の） | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 19. 家庭で不満を言われる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 20. 保護者がよく応援にくる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 21. 保護者の期待が大きい | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 22. 保護者は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

あなたと部員との関係について

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 23. 子供たちは私の言うことを素直に聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 24. 私は子供たちに信頼されている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 25. 私は子供たちに好かれている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 26. 私は子供たちに恐がられている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 27. 私は子供たちによく相談を持ちかけられる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 28. 私は子供たちの期待に応えていないと思う | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 29. 私は子供たちの意見をよく聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 30. キャプテンは部員で相談して決める | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 31. 練習内容について部員の意見を聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 32. 私は全員が平等に練習できるようにしている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

部員の状況について

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 34. 子供たちには仲間意識を持っている | 5-4-3-2-1 |
| 35. 子供たちは楽しく練習している | 5-4-3-2-1 |
| 36. 子供たちはなかなか上達しない | 5-4-3-2-1 |
| 37. 子供たちは心身ともに遅くなってきている | 5-4-3-2-1 |
| 38. 子供たちにはやるが気がない | 5-4-3-2-1 |
| 39. 子供たちは練習を無断でよく休む | 5-4-3-2-1 |
| 40. 子供たちは競争意識を持っている | 5-4-3-2-1 |
| 41. 子供たちは互いに注意しあっている | 5-4-3-2-1 |
| 42. 子供たちは練習中ふざけていることが多い | 5-4-3-2-1 |
| 43. 子供たちだけでも普段通り練習できている | 5-4-3-2-1 |
| 44. レギュラー以外の子供たちも意欲的に参加している | 5-4-3-2-1 |
| 45. 子供たちは試合に勝ちたいと思っている | 5-4-3-2-1 |

指導中の言葉がけについて

- | | |
|-------------------|-----------|
| 46. ほめる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 47. 技術的な指導の言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 48. しかる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 49. 叱咤激励の言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 50. なじる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 51. 結果の善し悪しの言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 52. 雰囲気盛り上げる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |

部活動をやめていく子供たちについて、退部の主な理由を多い順にあげてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

ご協力有難うございました。
尚、何かご意見がございましたら、お聞かせ下さい

<引用・参考文献>

- 1) 高山千代、「運動部活動指導者の現状と問題点」新潟青陵女子短期大学研究報告第27号、pp93-105、1997.
- 2) 新潟県バスケットボール協会編、「明日への翔魂」新潟県バスケットボール協会、1993.
- 3) 糸野 豊、他「現代社会とスポーツ」不昧堂、1984.
- 4) 体育社会学研究会編「体育とスポーツ集団の社会学」道和書院、pp135-158、1974.
- 5) 体育社会学研究会編「体育・スポーツ指導者の現状と課題」道和書院、1974.
- 6) 体育・スポーツ社会学研究会編「体育・スポーツ社会学研究2」道和書院、1983.
- 7) 佐伯聰夫、他「現代社会スポーツの社会学」不昧堂、1984.
- 8) 体育・スポーツ社会学研究会編「子供のスポーツを考える」道和書院、1987.
- 9) 城丸 章夫、水内 宏編「スポーツ部活はいま」青木書店、1991.